不老長寿の果実

モモ

学名：*Prunus persica* Batsch　科名：バラ科

女の子の成長を祈るひな祭りで、ひな人形の隣に飾られるモモ。古い時代から魔除けや厄除け、不老長寿の効果があると信じられており、中国では仙木・仙果などと呼ばれていました。モモは中国原産の落葉小高木で、春が訪れる頃に白色から淡紅色の花を咲かせます。日本へは弥生時代の頃には既に伝えられていたそうです。モモの栽培が本格的に始まったのは、明治時代の頃に水蜜桃など果実の甘い品種が輸入されるようになってからです。現在は山梨県、福島県、長野県などで主に栽培されています。モモには数多くの品種があります。食用とされるものだけでなく、花を観賞用とするハナモモと言う品種も存在します。

モモの種子は「桃仁（トウニン）」と呼ばれ、生薬として用いられます。桃仁は主に漢方薬に配合され、血の巡りを良くし、月経不順や便秘などを改善します。主に女性の体の不調を緩和する桃仁ですが、妊娠中の方には禁忌とされているため注意が必要です。また、モモの葉に含まれる「タンニン」には消炎作用があり、あせもに効果があるとされています。

駆瘀血（くおけつ）作用とは？

血流が滞り、巡らない状態を、東洋医学では瘀血（おけつ）と言い、これを改善する作用を駆瘀血作用と言います。

生薬名	桃仁（トウニン）局方生薬
薬用部位	種子
薬効	駆瘀血、血行促進、緩下作用
用途	婦人薬や緩下薬とみなされる漢方の処方に配合 桂枝茯苓丸（ケイシブクリョウガン）、 桃核承気湯（トウカクジョウキトウ）など

城西国際大学薬学部　5年生　河野 愛

日本特産の生薬

セリバオウレン

学名：*Coptis japonica* var. *dissecta* Nakai　科名：キンポウゲ科

本州や四国の山地の木陰に自生しているセリバオウレンは、草丈約20～30cmの常緑多年草です。早春の頃に花茎を出し、先端に1cm程の小さな白い花を2～3個咲かせます。その後は袋状の果実を複数付け、上から見るとまるで風車のような形です。葉は和名の通り、セリの葉に似た形をしています。

セリバオウレンは日本特産の生薬で、学名の*japonica*は「日本の」と言う意味です。日本産のオウレンはセリバオウレンの他に、キクバオウレン、コセリバオウレンがあり、葉の切れ込み方によってこの3つの変種におおむね分類されます。

「黄連（オウレン）」と言う名は、薬用部位となる根茎が黄色く球状に連なっていることに由来しているそうです。黄連の黄色は、アルカロイドの一種である「ベルベリン」と呼ばれる成分によるもので、口にすると唾液も黄色く染めてしまいます。また「ベルベリン」は苦味が非常に強く、唾液や胃液の分泌を促進するため、苦味健胃薬や整腸薬として用いられます。その他に抗菌作用や抗炎症作用などを有し、様々な漢方薬に配合されます。

セリバオウレンの果実

生薬名	黄連（オウレン）局方生薬
薬用部位	根茎
薬効	健胃、抗菌、抗炎症、血圧降下作用など
用途	苦味健胃薬、整腸薬として用いられる。 黄連解毒湯（オウレンゲドクトウ）、温清飲（ウンセイイン） 三黄瀉心湯（サンオウシャシントウ）など

城西国際大学薬学部　5年生　河野 愛

春の訪れを告げる香り

ジンチョウゲ

学名：*Daphne odora* Thunb.　科名：ジンチョウゲ科

中国原産の常緑低木であるジンチョウゲは、春が訪れる頃に白色から紅紫色の花を咲かせます。日本へ渡来した正確な年代はわかっていませんが、室町時代の頃には既に栽培されていたと考えられているそうです。ジンチョウゲには雄株と雌株があり、雌株は花が咲いた後に赤く丸い果実をつけます。日本のジンチョウゲはほぼ雄株であり、私たちが実を見る機会はあまりありませんが、この実は猛毒であるため、誤って口に含まないように注意する必要があります。

ジンチョウゲと言えば、強い芳香が特徴です。ジンチョウゲの花の爽やかで甘い香りは、私たちに春の訪れを知らせてくれます。学名の*odora*は、「芳香のある」と言う意味です。ジンチョウゲと言う和名は、香木の王様と呼ばれる沈香（ジンコウ）やクローブとして知られる丁香（チョウコウ）の香りを併せ持つ花とされたことに由来しているそうです。

生薬名は「瑞香花（ズイコウカ）」で、成分として含まれるクマリン類の「バニフン」や「ウンベリフェロン」が消炎、鎮痛作用を有し、のどや歯の痛みに用いられてきました。

生薬名	瑞香花（ズイコウカ）
薬用部位	花
薬効	消炎、鎮痛作用
用途	民間薬として、のどや歯の痛みに用いられた。

城西国際大学薬学部　5年生　河野 愛